

## 平成二十二年度 布教教化に関する生論

今、私たちは、地球温暖化の問題をはじめ災害、戦争、差別、貧困、自殺などいのちをめぐる諸問題に直面しています。いずれも曹洞宗が掲げる二つのテーマ「人権の尊重、平和の確立、環境の保全」に深く関わるものです。

登山さまは、「常に大慈大悲に住して、坐禅無量の功德、一切の衆生に回向せよ」とお示しです。毎日、み仏とご先祖が見守るわすもとで、姿勢を調え、呼吸を調え、心を調えましょう。そのとき、生かされ、強い絆で結ばれている一人ひとりのいのちの尊さに気づき、慈悲心あふれる行いをめぐらす生き方ができるのです。

お互いに相手を尊び、相手の立場に立つて悩み苦しむ、考え、行動し、共に生きる理想社会実現のため、まず私たちが率先して布施・愛語・利行・同事の行を実践しましょう。

道元さまは、「現在の身命の存せらるあひだ、このんで愛語すべし」とお示しです。愛語は、人びとの幸せな生活と心の安寧を願い、慈心から発せられる言葉です。この愛語の行には布施・利行・同事の行が十分に具わっていると説かれています。本年度もこの「愛語」を実践の柱とします。

愛語は苦しいときも楽しいときも、常に相手のことを思い、人を生かし、人を仏道に導く菩薩行です。

「南無釈迦牟尼仏」のお唱えは愛語の

根本です。

「南無釈迦牟尼仏」

## 平成二十二年度 布教教化方針

曹洞宗の布教教化は、一仏両祖の生き方を慕い、自己自身にそのみ教えを実現することを誓い、多くの人々と共に生きることを目指します。それは常に社会の苦を己のこととして考え、社会の苦に寄り添う仏教者の生き方を願うものです。

現代は自我の肥大と、人との絆を見失った結果、孤立を深め、いのちの尊さや人間関係の大切さを忘れかけています。このような社会であるからこそ、宗門として、また仏教者として「菩薩の実践行である四摂法（布施・愛語・利行・同事）」を実践してまいります。現代ほど寺院の使命や新たな役割が望まれている時代はないからです。

また、亡き人々や先祖を慕う心、その発露である供養を、かけがえのない絆として大切にしていきたいと思います。

そして、教化施策の柱である「人権の尊重・平和の確立・環境の保全」の展開をすすめ、本年度も「愛語」の実践を通して、「み仏の絆」を深め、次のように布教教化方針を定めます。

一、「南無釈迦牟尼仏」のお唱えの普及に努めます。

私たちが、常に「南無釈迦牟尼仏」とお唱えし、仏の教えを灯火として、坐禅に親しみます。

二、あらゆる差別の撤廃と人権啓発の活

動に取り組みます。

私たちは、仏教の慈悲の原意にたちかえり、社会の中で抑圧され排除されている全ての人々の苦しみを、悲しみを共有し、差別撤廃のために歩んでいきます。

三、共に喜びを分かち合える平和な社会の実現を目指します。

私たちは、過去のあやまちと戦争の惨禍を直視し、不戦を誓います。全世界の安心と平和な社会を実現するため、相互理解と協調による道を共に歩みます。

四、大いなる自然に生かされていることを思い、「地球環境をまもる全曹洞宗の運動」(グリーン・プラン)を継続していきます。

私たちは、自らが大自然とひとつであることを深く自覚し、未来の地球の姿に思いをいたし、身近なところから、環境に配慮した生活を実践してまいります。

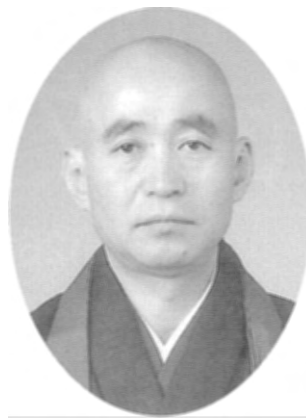
五、人々の出会いの中で、相手を思いやる菩薩行を実践していきます。

私たちは、他者の心の安らぎを自らの心の安らぎとして共に歩みます。苦難の中にいる人々に寄り添い、ボランティア活動など見返りを求めない積極的な菩薩行を、身近なところから始めます。

六、寺院を地域社会の「絆を再生する場」に活かします。

私たちは、地域社会に積極的にはたらきかけ、寺院を広く開放し、人びととの様々な縁を大切にし、信仰生活を柱とする絆をつくってまいります。





宗門は今年度も愛語をテーマに「人権・平和・環境」を、日本はもとより世界に発信しているところでありますが、皆さん御周知の通り、それぞれの問題がますます深刻になりつつあります。そんな中であって、一体世の中はどこへ向かって行くのかと憂える昨今でもあります。しかし、明るい兆しもあります。それは今、ZENが世界のあちらこちらで注目されているということです。

お釈迦様の御教え、お悟りは、人間の生命の根源であり、道元禅師様の只管打坐であります。言葉もいらぬ、行の中に、坐禅が現成する。高祖様は「いわゆる有事

は、時すでにこれ有なり、有みな時なり。」(正法眼蔵有時) 万有、つまりすべての存在が時である。生きている事実がそのまま時である。だから刹那生滅、瞬間、瞬間の命の連続であり不連続。時間空間を超えた一つの真理を説かれま

す。坐禅がそのまま仏道であり、無始無終の宗旨と説かれます。本当に有難い御教えであります。この道元禅師の教えられる坐禅は、今や国境を超え、人種を超え、平和を求める人々によって行じられております。当山にも昨年来、イスラエル・南米チリ・ドイツ・オーストラリア・アメリカと長期参禅者があります。日本においても、ただその方法がわからないでいるということ。海外の若者に影響されて参禅に来られる方、学校で働く海外から来た英語の先生に、大学で外国のお友達に誘われて来た。そんな参禅者がZENに心を開いてやってきます。外国からの若者は、「日本に来たら坐禅をすることが一つの希望でし

た。ここに来て本当によかったです。初めて日本の食事の作法を教わった」と感激していた。また大

学教授は、長い間、我々が忘れていた心の世界、皆で読経をし、度量器での食事等に参加させていた

るお寺から発信していきたいものです。最後にりましたが、管区内御寺院様の正法興隆・檀信徒の皆さまのご健勝をお祈りいたします。また私共、初心に帰り、教化に全力を尽くします所存にて、何卒お力添えの程よろしくお願い申し上げます。



岡山県宗務所だより

平成二十一年度活動報告

◎教化主事 山本 道雄

六月二日、矢掛町洞松寺を会場に、「寺族会総会・研修会」を開催。堂長鈴木聖道老師(教化センター統監)の坐禅指導を中心に研修した。

六月十二日、総社市サンロード吉備路にて「婦人会総会・研修会」を開催。役員改選に続き、政木タツキングスクール政木信昭先生の『食は人づくり』と題して講演をいただく。

六月八・九日、「現職研修会」を開催。回向文解説、人権学習の他、消防署による救命講習を受講した。

めでの県内開催だったが、子ども十九名の参加を得て有意義な二日間であった。

十月二十九日、真庭市久世エスパスランドにて「梅花流岡山県奉詠大会」を開催。特に今回は映画『禅ZEN』の鑑賞も行った。

十一月十日、倉敷市マービーふれあいセンターにて「管内人権学習」を開催。ハンセン病差別を取り扱った劇映画『新・あつい壁』を鑑賞し学習した。

十一月十六・十七日、中国曹洞宗青年会岡山県大会が、岡山プラザホテルにおいて、講師に辛坊治郎氏と小池龍之介氏を迎えて開催された。

広島県宗務所だより

宗務所業務情報化の現状と方向性について

◎宗務所長 嶋田 弘道

宗務所業務に携わり、管内寺院のご支援により任期最終年の四年目を迎えることができました。当

初から、宗務所の情報化に向けても取り組んでまいりました。以下に、広島県宗務所業務情報化の現

状と、実務を踏まえての今後の方向性について述べさせていただきます。

一、宗務所業務情報化の現状について

就任当初は、業務の殆どがパソコンを必要としているにも関わらず、インフラ・LAN環境が構築されてなく、プリンタを使う際はお互いに接続線を差換えて使うような状況でした。また、宗務所の行事は、毎年ほぼ同じですが、その案内状等、再利用できるデータは個人のパソコン等に保存されており、情報の共有の面だけではなく、再利用の面からも業務効率がよいとは言えませんでした。

現在は、LAN環境を構築し、印刷機を複合機に替え、印刷、プリンタ、FAX、スキヤナ等の共有を行っております。又、案内状等、再利用できるデータは、誰でも共有ディスクに保存できる環境になっており、案内状等はデータを再利用して作成しております。更には、同時にインターネットへ接続しましたので、本庁システムへの接続が可能になり、最新の寺院情報や梅花情報等が閲覧できるようになりました。

二、情報化の方向性について

今後の方向性につきましては、諸事を勘案する必要がありますが、次の三つが近々の課題と考えております。

(一) 情報伝達の効率化

宗務所からの諸連絡は、殆ど郵送で行われております。インフラを構築・整備し、例えば教区長老師ぐらいまでは、インターネットメールを使い連絡することが可能になれば、情報伝達の効率化、業務負担の低減が期待できます。

(二) 進達業務の効率化

宗務所も情報化を推進しており、ZENネットのホームページから申請用紙がダウンロードできるようにしております。ただ、いざ進達をしても、必要な関連書類はなにかと、義財金はいくらなどまだまだ情報不足が否めません。そういった不足した情報を宗務所から情報技術等で公開することは、差戻し率を低下させたり、問い合わせ件数を減らしたりと、進達業務の効率化だけでなく、負担の低減も期待できます。

(三) 会計業務の効率化

その他、会計業務について、ソフトを導入することで、管理負担の低減が期待できます。

ただ、情報化を行うには、情報技術の活用力には個人差があるため、現行のアナログ的な方法も残しつつ、推進していくこととなります。様々な状況を考慮しつつ、任期中にできるだけ業務の負担低減と効率化の実現にむけて、情報化を推進してまいります。

## 山口県宗務所だより

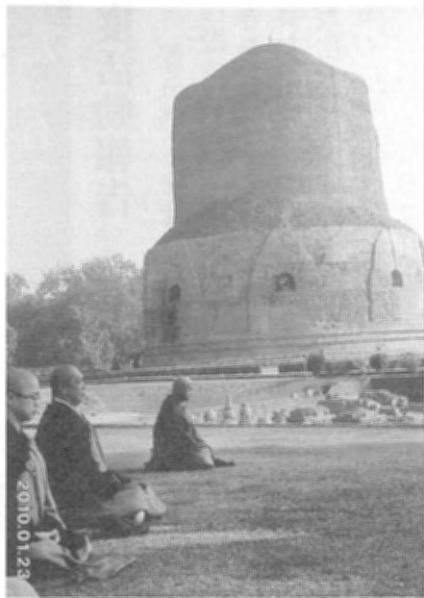
### 「山口県宗務所だより」

◎教化主事 荒木 玄修

二十一年度の事業報告をいたしました。徒弟研修では沖繩に行き、お寺での研修だけでなく、戦争の悲惨さや、自然のありがたさを学びました。

十一月十日には管区主催の「禅をきく会」を開催しました。講師には、スリランカ上座部仏教のアルボムッレ・スマナサーラ師を迎え、檀信徒だけでなく「宗教・宗派を越えて」広く呼びかけました。おかげさまで檀信徒六百名と他宗の僧侶も含め約二百五十名の一般の方の参加をいただきました。後日も「大変よくわかった。」等のお声を頂戴し、一般の方への発信の大切さを学ばせていただきました。

一月十八日から二十七日まで宗務所企画として「インド仏跡参拝」に宗侶・寺族十六名で報恩の旅に行ってきました。宗侶は衣・お袈裟を必携とし、サールナート・ブッダガヤ霊鷲山・竹林精舎で、搭袈裟で報恩の凱経のご



詠歌・坐禅・仏教聖典誦誦等をさせていただきました。二千六百年前にお釈迦さまがおられたその地で、福田衣下の身となれた幸せが心身の奥から湧き出て、自然と坐禅をしたり、清らかな風に吹かれて思いを廻らせていました。日程上、全ての仏跡を参拝する事はできませんでしたが、必ず次につながると思いを届けておりました。管区内の皆さまも、インドに仏跡参拝されます時は、お袈裟をお持ちいただく事をおすすめいたします。心の奥から喜びが一段と増すことでしょうか。

## 鳥取県宗務所だより

### 『中国管区集会』を開催する

◎教化主事 柿本 弘道

昨年、十一月二十六日(木)二十七日(金)の二日間、本県米子市において、『中国管区集会』が開催されました。

本年は、曹洞宗宗門護持会が制定されてから四十周年を迎える節目の年に当り、その記念事業として「檀信徒集会」が併せて開催されました。

まず、第一日目「檀信徒集会」を本県宗務所の「檀信徒地方研修会」と兼ねて催し、約六百五十名の檀信徒の方々にお集まりいただきました。集会は、中国管区教化センターの鈴木聖道統監老師による禅話『照顧脚下』の提唱のあと、キャスター・エッセイストとして活躍中の福島敦子氏による『私の取材手帳から』と題した講演会を行いました。

講演では、福島さんが取材してこられた多くの方の中から、長嶋茂雄元巨人監督・デザイナーのアルマーニさん・映画の市川崑監督・身内になった鈴木イチロー選手などの人柄人生感などを紹介され、その軽妙で流れるような語り口に聞き入った講演でした。



続いて第二日目は、宗門護持会・中国管区各県宗務所から百六十名が参加し「中国管区集会」が開かれました。今年度の管区集会のテーマは「菩提寺と檀信徒の接点を求めて」というもので、はじめに福島県会津地方の過疎問題を取材したDVDを視聴し、中国地方でも懸案の過疎化について意見交換いたしました。引き続き、各県宗務所の六名の代表の方の意見発表をうけ質疑応答があり、貴重な意見・提言が寄せられ二日間の日程を終了いたしました。

本県宗務所としましては、昨年度の『禅をきく会』に続いての大きな大会の運営でありましたが、こうして無事円成できましたこと、関係各位のご支援のたまものと書面にて失礼ですが、感謝お礼申し上げます。

## 島根県第一宗務所だより

### 行事活動報告

◎教化主事 和田 善明

平成二十一年度は、特別な行事はなく、例年通りの活動でした。

教化関係は、十月の現職研修では、准教師喪儀法と回向文の講義を受け、質疑や意見交換も行い研修を深めました。同じく十月の寺族研修会では、積尊伝を学びました。興味深い講義で好評でした。

檀信徒研修は、六月の本山研修会、九月の地方研修会とも多数の参加者があり、有意義な研修ができたと思えます。

例年二月行っている島根県布教講習会は、当宗務所の主管で、一昨年からの引き続きで、現代の僧侶論、教学の諸問題についての研鑽しました。熱心な聴講と、活発な質疑応答で、実りのある研修に

なりました。

人権学習は、五月と九月に、宗侶・寺族の参加を得て、講義とフィールドワークを通して、差別の実態を学びました。

梅花関係は、十月の特派巡回、二月の宗務所奉詠大会など順調に務めることができました。

平成二十二年度の大きな行事は、十一月に行われる本庁主催の「禅をきく会」です。講師は脚本家の田淵久美子氏を予定しております。多くの方の参加をお願いいたします。

その他、例年の宗務所行事に対しても、御参加、御助力いただきますよう、重ねてお願いいたします。

## 島根県第二宗務所だより

### 島根県第二宗務所の布教教化の動き

◎教化主事 堀江 晴俊

平成二十一年度の布教教化の重点施策として

一、教学の参究と布教教化の充実

二、宗務所会館の利用促進と宗教法人化に向けて

三、関係団体との連携と密接化

#### 四、人材の計画的育成

の四項目を現所長任期中の継続的な目標として布教教化の運営を行って参りました。

平成十八年六月に完成致しました曹洞宗島根県第二宗務所会館内にて宗務行政を行っております。曹洞宗島根県第二宗務所の法人化に向けて、各方面との連絡調整及び申請手続きを進めてまいりましたが、平成二十一年四月十三日に念願でありました特別寺院としての法人化の認可に至り、同月二十七日付けで登記も完了致しました。布教教化の中核施設と特別寺院との二面性を持ちながらも、施設の運営と活動の充実を図って参ります。

数年前より、宗務所護持会役員の選出方法や継続的、並びに円滑な活動方法や事業費財源など、宗務所護持会のあり方について論議がなされており、度重なる論議の結果、宗務所護持会の活動をより護持会に主体性を持たせながら円滑に活動ができるよう活動の運営要綱の見直しを行いました。役員選出に当たっては、任期が満了しても新期役員での活動が停滞する事なく継続的に行えるようにし、護持会独自の事業予算化と共に護持会としての広報活動の充実のために、宗務所報の編集委員会への参画など、これまでの宗務所

傘下の活動から大きく宗務所護持会として主体性をもった活動がなされるよう活動の発展的見直しが行われました。

昨年度は本庁主催の「禅をきく会」を開催いたしました。年度当初より中国管区教化センター並びに所内において綿密な実施要項を作成し、管内寺院をはじめ護持会の協力により、平成二十一年十一月二十五日に宗教評論家ひろさちや氏をお迎えして開催する事ができました。当日は講演に併せて中国管区教化センターの提供による「今日のこころ 私のことろ」と題したラジオ放送と同じ内容を、ピアノ演奏とナレーターによるトークコンサート形式にて披露されました。島根県民会館大ホールを埋め尽くした参加者約一千百名の心を和ませてくれました。





# 紙上法話

## 「仏のいのち」

センター布教師 万福寺住職

翁 泰仙



私の自坊は吉備高原の南部の小さな谷あいにあります。いまでもなく過疎高齢の集落で、まさに限界あるいは消滅など将来性や希望のまったくない形容で呼ばれる、そんな集落です。

たしかに、お盆やお彼岸にお檀家を回りましても、老夫婦かもしくは、一人暮らしのお年寄りが殆どで、若い世代は、県南あたりに出たきり、帰る当てもないというのが現状です。そうした中に、九十歳半ばで一人暮らしのお婆ちゃんがいっぱいいます。いつも私がお参りに行きますと、きまって足腰の痛いことや、一人での生活が難儀であることなど、ひとしきり愚痴めいたお話しをされるのですが、帰り際にはいつも、「何時まで方丈さんに、こうして会えますか。」と行って見送ってくださいます。これに対して、私のほうも「いやいや、おばあちゃん何時までも元気でいてくださいよ。」と答えるのが常でした。

そんなある年の棚経に向いた時のこと、そのお婆ちゃんには、私の姿を見るなり、私に向かっいきなり合掌して、「ああ有難い。こうしてまた方丈さんにお遭いすることができました。」と言われたのです。

私はその姿を目にするなり、眼からうろこが落ちる思いがしました。その姿は、まさに自己への執着など微塵もない、ただ生かされている命への感謝のきもちが、ひしひしと私に伝わってくる瞬間でもありました。

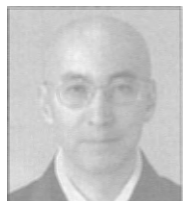
九十年余もの人生は、紆余曲折の多い人生であったに違いありません。その人生の、一コマ一コマを強く生き抜いてきた上で、今この瞬間の命、つまり一息、一息がとても幸せであり、有難く思えるようになったのでしょうか。

私たちは、常日頃から、たいいていのことは自分の思惑通りに制御できるこの身体や心、あるいは命までもがまるで自身自身の所有物であるかのように振舞っています。そして、それが思惑に沿わないときなど、腹を立て、愚痴をいい、またストレスという檻の中に閉じ込められて、いつの間にかもがいています。

お婆ちゃんの姿は、自己というこだわりや認識を離れ、仏の力に感謝しながら、一切を仏に任せ、「縁やすべての条件を大切に受け止めながら、ありのままを生きなさいよ。」と、教え諭してくれている菩薩のように見えました。

# センター布教師一覧

## 鳥取



7 教区151番 安国寺  
森下 慈孝  
〒683-0831 米子市寺町50  
☎(0859)22-3836

## 島根一



3 教区258番 宝福寺  
森山 容光  
〒699-4431 江津市桜江町長谷411  
☎(0855)92-1396

## 島根二



9 教区187番 養善寺  
西古 孝道  
〒699-1343 雲南市木次町湯村900  
☎(0854)48-0371

## 岡山



4 教区102番 万福寺 翁 泰仙  
〒716-0335 高梁市成羽町布寄237  
☎(0866)45-2568

## 広島



3 教区58番 宗光寺 垣井 龍頭  
〒723-0062 三原市本町3-11-1  
☎(0848)62-4719

## 山口



2 教区37番 安養寺 渡辺 勝人  
〒747-0825 防府市新田古前1246  
☎(0835)22-1865

## 中国新聞文化センター

### 特別講座

### 金子みすゞの詩と仏教



金子みすゞの詩のやさしさ、深さは、仏教が説くそれと相通じるものが少なくありません。酒井大岳老師(写真)を講師にお迎えして、数編の詩を鑑賞しながら、仏教が今に伝える真の姿、生きる力を学びます。

第一部が酒井大岳老師講演、第二部が曹洞宗中国管区教化センター布教師による仏教Q&Aという構成です。

■日時 5月27日(木) 第一部 午後1時半〜3時  
第二部 3時15分〜3時45分

■場所 中国新聞ホール 広島市中区土橋町7の1(中国新聞ビル7階)

■講師 長徳寺住職 酒井大岳老師

■定員 500人(事前申込みが必要です)

■申し込み・問い合わせ

中国新聞文化センター興銀ビル教室  
広島市中区紙屋町☎082(247)4788





# 第25回子ども禅インサマーセミナー in 鳥取県

平成二十一年七月二十七日(月)～二十九日(水)

講師 大本山總持寺後堂 盛田正孝老師 参加総数 五十二名

## 禅インサマー セミナーに参加して

指導員 源徳院 秋久 重規

今回、初めて禅インサマーセミナーに参加させて頂きました。子ども達と二泊三日という長い間一緒に過ごす、貴重な経験でした。我々の地域では、子ども禅のつどいという同じ様な小学生を対象とした、一泊二日の研修を毎年夏休みに行っています。

しかし、今年の禅インサマーセミナーは中国五県、九州からも参加者があり、又、二泊三日という長い時間を初めて会った子ども達と共同生活をするのです。そして、家庭や学校と違った環境での生活です。慣れる子・慣れない子、友達と仲良く出来る子、なかなか友達が出来ない子、子ども達にも

色々なタイプの子ども達がいるのです。

しかし、大人に社会がある様に、子ども達にも子どものルール、子どもの社会があるのです。私は指導員という立場で全体の子ども達を見ていました。現在の子ども達というのは、実に自己表現が上手です。意見をはっきり、思っている



事もはっきり相手に伝えるので

心配する程の事もなく、子ども達で進んで生活していくのです。仕事としては手助けや、注意するくらいでした。

禅インサマーセミナーというところで、坐禅を経験したり、食事の前の五観の偈等、普段家では経験できない体験をした子ども達も殆どです。その子どもが、この二泊三日の共同生活、普段経験出来ない事をして、何かをつかみ取り、自分の心の中に気付く何かを持ち帰る事が出来たなら、最高の禅インサマーセミナーになったと思います。経験・体験することにより、学び思う心が育つ。一人でも多くの子ども達が、また来年も参加したいと思ってくれる事が、この会の大きな大きな意味を持つんだなあと思いました。



この度お世話になりました、中国管区教化センターの皆様、各県の指導員の皆様、船上山の皆様に御礼と感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 初めて禅インサマー セミナーに参加して

小五年 中本 涼介

初めて禅インサマーセミナーに参加し、不安もありましたが勇気を出していろいろな課題に取り組んでみると、みんなで力を合わせてすべてをこなすことができました。

ナイトハイクでは真っ暗な夜道を歩き、途中でおぼけの格好をした先生に道をたずねながら楽しく目的地までたどりつくことができました。

ウォータースライダーでは、つるつるとすべりやすい岩を登りながらやっと目的地にたどりつき、一人ずつ順番にすべりおきて、ふだんでは味わうことのできない壮快な気分を味わいました。またピザ作りでは、仲間と白い粉だらけになりながらピザを焼きあげることで、生まれてはじめて作ることができたというこちよい達成感を味わいながら、みんなで楽しく食することができました。

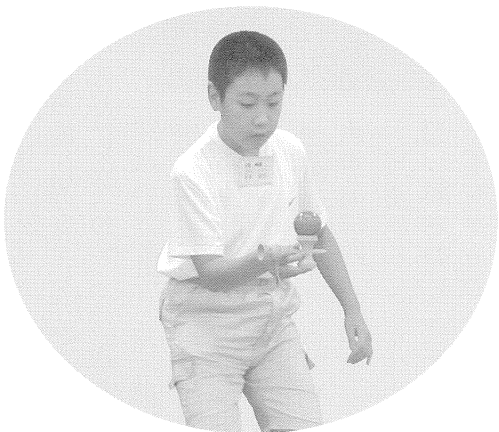
坐禅は禅インサマーセミナーに行く前はあの苦手でした。初めて



坐禅をしたのは去年の夏に彌勒寺さんで、父と母とぼくの三人でやりましたが、足が痛くなったので苦手になりました。でも禅インサマーセミナーに行くと、先生方が分かりやすく教えてくれたので前より楽にできました。そしてその体験で集中し、冷静な行動をとることができ坐禅をし

たことはぼくにとっても良かったと思います。

ぼくは今後、もっともつと坐禅



をして、すごい集中力を身につけてどんな時にも冷静な態度がとれる人になりたいです。

そのように今回のセミナーは、ぼくにとってとても勉強になりましたが、中でも特に印象に残ったのはキャンドルサービスの時間です。キャンドルサービスでは、六班に分かれてそれぞれの班がめいめいの出し物をするという場面があったのですが、ぼくたちの班は、けん玉で望みました。みんな成功し、会場のみんなども一つになれたと思



います。このおかげでぼくはすっかり前であがらずに何でもできる自信ができました。

最後に、いつも楽しく分かりやすい、しどろをしどろとくださった「盛田先生、村上先生、一班の門脇先生、その他大勢の先生方や自然の家の先生方どうもありがとうございました。」



講師  
ひろ

さちや氏

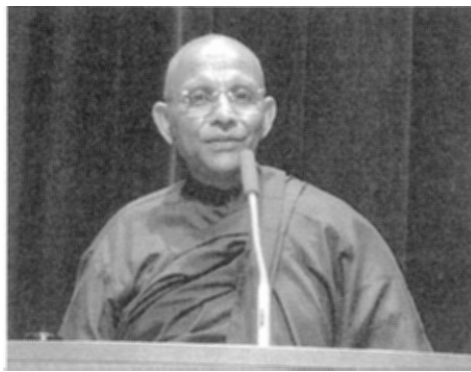


禅をきく会(本庁主催)平成21年11月25日  
於：島根県松江市 県民会館大ホール



# 禅をきく会

講師  
アルボムツレ  
スマナサーラ師



禅をきく会(センター主催)平成21年11月10日  
於：山口市・健康づくりセンター

島根県第二宗務所護持会

会長 斎藤 敏正

平成二十一年十一月二十五日(水)、島根県民会館大ホールに各地区から千有余名の参加を得、宗務庁主催、中国管区教化センター共催による「禅をきく会」が盛大に開催されました。  
講師には、宗教関係図書を多数執筆され又宗教評論家として著名な、ひろさちや氏を召き「南無そのまんま」を演題にお話を拝聴した。



初めに、童話「舌きり雀」を話題にして、私達は童話そのものをストリートに解釈しますが、人の考え方は十人十色でありそれぞれ物の見方、考え方が必然的に異なってくるので自分の見方、考え方にこだわってはいけません。  
競争社会において、金欲、物欲、出世欲に勝つても次に追い越される不安があります。敗者は屈辱感を味わうことになりま

す。「此岸から彼岸に渡れ」と云われますが、此岸は煩惱の世界である、助けを求めたときに助けてくれない、人に親切にするが心の片すみにお返しを期待する即ち打算的に生きています、これが此岸の世界であります。後者の彼岸は佛の世界であります。此岸から彼岸に渡るため心がけること。一つ、欲望を少なくする。二つ、いい加減のすすめ。熱いお茶を好む人は熱いお茶がいい加減、ぬるめのお茶を好む人はぬるめのお茶がいい加減であり、自分のいい加減をみつ



けることが大切。三つ、差別するな。差別と区別は違ってはいますが、しなくてよいものを差別し、する必要のないものを区別するとすれば、日常において必要な区別はあります。と結ばれました。  
休憩後ピアノスト正木路子氏のバックミュージックにのせ、中司弘子氏の「今日のころ、私のころ」と題してトークコンサートが催され心を癒されました。

山口県 海潮寺副住職

木村 延崇

この度の禅をきく会は、青年会による大般若祈祷法要・和太鼓の演奏と、スリランカ長老による講演の二本柱を中心に開催されました。

曹洞宗が今日のように大きな教団に展開したのは、十四世紀中葉以降、瑩山禪師門下の明峰・峨山両禪師らの門弟を主軸に教団拡張が図られたことによります。やがて国内は戦乱期に入り、疫病や飢饉など、今よりはるかに死が隣り合わせだった時代であったことを考えますと、死の恐怖の克服を与えることが、教団の存在意義であったといえるかも知れません。その中心に、ご祈禱による救済がありますが、祈りの体験を通して、人々が宗教的な安心を獲得していったのでしょう。青年僧による清潔感と緊張感が漂う祈禱太鼓は、聴講者にとっても静かな感動を与えたように感じられました。

来場者は会場の腰掛けに座っているため、椅子坐禅の実演もなされました。道元禪師がお説きになる作法に則れば、結跏ないし半跏趺坐ということになりますが、身体的な事情により適わない場合、現在では椅子による坐禅を推奨しています。しかし、個人差のある体型にジャストフィットする椅子を用いないと、腰痛を招き、長時間の

坐禅を続けられないなど問題は多いように思います。どのような方でも安心して取り組める坐禅用椅子の開発と、坐相の再構築が、これからの宗門の課題であると思えます。

スリランカ上座部仏教のアルボムツレ・スマナサーラ大長老による講演は、事実を真正面からハッキリと指摘される内容で、大変刺激的なお話でもありました。如実智見(よじつちけん)、ありのままをありのままに見るのがお釈迦様の智慧であり、なかなかそれが伴わないのが私たちです。しかしお話を通して、私たちでも地道に教えを聞き、教えの通り生きること、真実を正しく見る眼(まなこ)、正法眼(しょうぼうげん)を獲得できるとの励ましをいただいたと、受け取りました。





# センター布教協議会・講習会



岡山県 善江院住職

加藤 清文

平成二十一年九月八日〜九日

於 岡山市・アークホテル岡山  
メイン講師 佐々木 宏幹先生

## センター布教協議会・講習会に参加して

九月八日・九日、岡山市のアークホテルにて布教協議会・講習会が開催された。もう参加して何年にもなるが、中々、学んだことを自分のものにできない私が存在する。日頃、一日を無駄に過ごしている私にとっては、人の話を聞くこと、体験することとは、とても貴重な時間だ。

この度の講師には、駒澤大学名誉教授、佐々木宏幹先生をお招きしての講演でした。「現代の僧侶と今後の教化」と題し二日間の講演を頂いた。佐々木先生の講演は、何度か聴かせて頂いたことがある。いつも思うことだが、先生の語られる姿には、圧巻される。話の内容の重要性は勿論、宗教、仏教というものをいかに大切にされておられる

か、その姿だけでも十分に伝わるものがある。

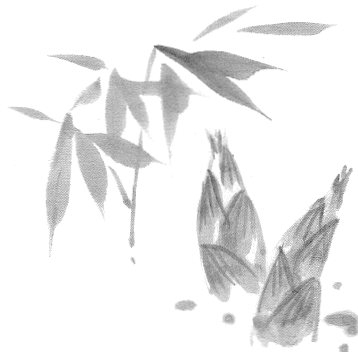
現代においての私たち僧侶の役目……。問われると返答に困る。返答に困ること自体、私は僧侶として生きていけないのかもしれない。私自身悩むことは、苦しいことだが、悩める自分、秘かに幸せなことだとも思うことがある。ただ、それが解決されず多く多くなると本当の苦しみに変わっていくのだろう。これから人々の信仰がどのように変わっていくのか解らないが、私は、変わっていくかなければ……。布教協議会では、人権学習が



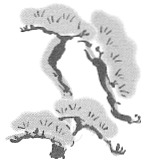
行われる。理解しているようで、聞きたびに新しい一面が見えてくる。昔の私の人権に対する考えと、今の私の考えを比べると、少し違う考えになってきているような気がする。

布教実演では、お二方の老師の話を頂いた。お二方とも熱いものが感じられる。私には、あののだろうか……。

夢のごとく幻のような協議会でした。老師方より、よいお話を頂きました。また、更なる悩みも頂いたようにも思います。ただ、それに、あえて感謝申し上げます。



# 青少年教化指導者研修会



山口県 願成寺副住職

南 健司

平成二十一年六月二十五日〜二十六日

於 岡山市・梅乃屋

メイン講師 増田 友厚 老師

## 青少年教化指導者研修会に参加して

去る六月二十五日より青少年教化指導者研修会に参加するご縁を頂いた。

丁度この研修会の三カ月前に、専門僧堂より乞暇したばかりで、まだまだ右も左も分からず、今後一人の僧侶として同世代の人々とのように関わっていくべきかを模索していた時期に、この研修会に参加できたことは非常に有益であった。

研修会では、講師の増田友厚老師より、社会の様々な今日的課題に、仏教がそして僧侶がどのように関わっていくべきか、また仏教や僧侶がそうした課題にどうかかかっているか、ご自分のこれまでのご経験、及びご自坊やその周辺地域を中心



に現在も続けておられる様々な活動を例に出されながら、分かりやすく講義をして頂いた。そのお話の中で特に私の印象に残ったのは、不登校の子供たちを、ご自坊に招き、勉強を見てあげたり、人生相談に乗ってあげたりされているご活動のことであった。学校に行けないこと、「社会」に居場所を失いつつある不登校の子供たちが、学校や家庭以外に自分のことをちゃんと見ていてくれる人がいると思える場所を持つことが、どれだけ彼らの助けになっていることだろうか。そして、そのような役

割こそ、寺や僧侶がこれから担っていくかなければならないのではないかと深く共感した。

また、他の参加者の方々との「自坊での教化活動の取り組み」についての意見交換会も非常に参考になった。それぞれの方が、これまでの伝統を守りつつも、新しい形の教化活動を日々実践・実践されている事に対し刺激を受ける一方、良いアイデアをたくさん頂くことが出来た。

二十一世紀に入り、曹洞宗のみならず、日本の仏教界は大きな転換期にさしかかっている。寺院への参拝者は減り、檀家は減り、その結果、寺院そのものが減りつつある。そのような現実の中で、「今を生きる人への宗教」の担い手の一人となれるよう、この研修会で学んだことを生かし、これから精進していきたいと思う。



平成21年度曹洞宗中国管区青少年教化指導者研修会



# 曹洞宗婦人会中国管区研修会

平成二十一年十月十三日～十四日  
於 福山市鞆の浦・ホテル鷗風亭  
講師 幣道紀 老師・豊島住夫氏

広島県吉祥寺婦人会  
高本 孝栄

## 私のできる事から

平成二十一年度曹洞宗婦人会中国管区研修会が、十月十三、十四日、福山市、鞆の浦の鷗風亭を会場に開催されました。

各県から二百四十名の多勢の方々が参加され、会員の方々のふれ合いの中で、多くの事を学ばせて頂きました。

今回は、弁護士豊島住夫先生のお話を二日間にわたって聞かせて頂きました。

一九七〇年代、世の中に物が豊かになり、経済が発展した中で、青少年の非行が増したそうです。非行に走って少年院に入らねばならなかった子供達にも、生んでくれた親がいて、育ててくれた家族があります。その親の感情にまかせて子供を叱ったり、子供に無関心、無責

任である親が増えていくそうです。先生は、親と子のきずなの強さが子供を非行から守ると、教えて下さいました。

母の胸の中で乳を飲んだ子供は、母の心音を聞いて、心が安定するのだそうです。

子供の小さなまちがい、誰もとがめなければ、子供はだんだんルールを守る意識がなくなります。きちんと叱ってあげることも大切な親の責任です。

私自身の子育てをふり返って、反省させられる事ばかりです。子供と正面から向き合ってきた



かな？今日からでもおそくはない。親と子のきずなをしっかりと築いていこうと思います。

まず親自身が正しいものの方を学んでゆく事が大切かなと思います。私は吉祥寺婦人会でよき仲間とめぐり合い、互にみがか合う事ができ、とても幸せです。

今回、多くの方々の御努力のおかげで研修会が実りあるものとなり、感謝申し上げます。ありがとうございました。



## お知らせ

### 青少年教化指導者研修会

- 日時 平成22年6月14日(月)正午受付 13時開講～15日(火)正午まで
- 会場 鳥取県米子市 ハーベストイン米子
- 講師 竹内 弘道師
- 参加費 12,000円
- 対象 青少年教化員・青少年教化を志す宗侶
- 申し込み先 各宗務所
- お問い合わせ 教化センター



### センター布教協議会・講習会

- 日時 平成22年9月15日(木)正午受付 13時開講～16日(金)正午まで
- 会場 鳥取県米子市 全日空ホテル
- 講師 未定
- 参加費 13,000円
- 対象 布教師・宗門僧侶
- 申し込み先 各宗務所
- お問い合わせ 教化センター



## 平成22年度 第26回 子ども禅インサマーセミナー IN 島根 風の国

開催日：平成22年7月27日(火)～29日(木)

参加費：子ども(中学生以下) 1万円 [2泊3日宿泊・保険・記念写真代込]

大人 2万5千円 [2泊3日宿泊・保険・記念写真代込]

集合時刻：7月27日(火) 午後12時半より受付 13時開会式

集合場所：風の国(※宿泊も同所) 〒699-4431 鳥取県江津市桜江町長谷2696  
TEL0855-92-0001 FAX 0855-92-0003

お問い合わせ先

主催：曹洞宗中国管区教化センター

〒722-0033 尾道市東土堂町17-29 天寧寺内  
TEL (0848) 25-2855 FAX (0848) 25-4148

〈ホームページ〉 <http://kyouka-chugoku.com>

※諸事情により内容が変更することもあります。ご了承下さい。

7月	行程概要
27日 〈火曜日〉	◎13時より開会式 ◎和尚さんからの坐禅指導 ◎お楽しみ会 風の国泊
28日 〈水曜日〉	◎班別行動 ◎移動後、寺院拝観・坐禅体験 ◎水族館アクアス見学 ◎キャンドルサービス 風の国泊
29日 〈木曜日〉	◎オリエンテーリング ◎さよならパーティー



## ■平成22年度事業計画

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

月	日	行 事	備 考
4	6(火) 13(火)～14(水) 19(月) 下旬	センター布教師協議会 全国教化センター前期連絡協議会 センター運営・企画委員会 中国管区教化センター報第26号発刊	広島市 ホテルニューヒロデン 宗務庁 広島市 ホテルニューヒロデン
5	24(月) 27(木)	人権三者協議会 中国新聞文化センター公開講座	米子市 ワシントンホテルプラザ 広島市 中国新聞ホール
6	( ) 14(月)～15(火)	曹洞宗婦人会中国管区役員会 青少年教化指導者研修会	米子市 ハーベストイン米子
7	27(火)～29(木)	第26回子ども禅インサマーセミナー	島根県江津市 風の国
8			
9	14(水)～15(木) 15(木)～16(金) 16(金)	管区役職員人権学習会 センター布教協議会・講習会 布教師特設検定会予定(中国・四国・九州)	鳥取県 米子全日空ホテル 鳥取県 米子全日空ホテル 鳥取県 米子全日空ホテル
10	7(木) 12(火)～13(水) 22(金)	禅をきく会〔管区センター主催〕 曹洞宗婦人会中国管区研修会 センター運営・企画委員会	広島県尾道市 しまなみ交流館 岡山県 鷺羽ハイランドホテル 広島市
11	4(木)～5(金) 13(土)	全国教化センター後期連絡協議会 禅をきく会〔本庁主催〕	宗務庁 島根県益田市 グラントワ
12			
1	下旬	中国管区教化センター報第27号編集会議	
2	( )～( )	島根県布教講習会	島根県第二宗務所管内
3			
4月～3月(毎週土・日) 4月～3月(第1・3土) 4月～3月(第2土曜日) 月 日( )～日( )		ラジオ放送「今日のこころ 私のこころ」 中国新聞文化講座「やさしい禅」 中国新聞文化講座「坐禅のすすめ」 布教委員長会議	RCC中国放送(キー局) 広島市 クレドビル教室 広島市 クレドビル教室 鳥取県宗務所管内

## ■センター役職員

統 監	鈴木聖道	洞松寺	〒714-1212 岡山県小田郡矢掛町横谷3796	☎(0866)82-0087
主 監	村上邦雄	摩訶衍寺	〒722-0202 広島県尾道市原田町梶山田4338	☎(0848)38-0656
賛 事	蔵重宏昭	清水寺	〒759-5511 山口県下関市豊北町大字滝部2286 〒753-0811 山口県山口市吉敷佐畑4-10-20 玄濟寺内(連絡先)	☎(083)922-4560
賛 事	檀上一祥	吉祥寺	〒722-2416 広島県尾道市瀬戸田町林686	☎(0845)27-0719

## 編集後記

●平成二十年度に宮下教化部長より、今までは教化部において作成していた全檀家向けの資料を、宗内の檀信徒のみならず広く社会一般に向けて発信するよう各管区教化センターに指示が出されました。

●当センターでは、管区内向けの独自の教化事業としてラジオ放送による「今日のこころ 私のこころ」を開始しています。

●今年度は中国新聞社の協力を得て公開講座を年二回広島市において開催の予定です。センター布教師の協力で充実した布教教化を目指しています。

●管内御寺院様のさらなるご協力のほどよろしくお願いいたします。